令和7年度　三国中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1　「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1　全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【＝Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3　年	学校	272	55	46	6.6	11.1
	大阪市	―	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	―	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	485
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和7年度　三国中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

調査結果から

【成果と課題】
〇全国学力・学習状況調査結果
＜国語＞
全国と比較して平均正答率は0.7ポイント上回った。学習指導要領の領域別の平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」分野が全国平均を3.9ポイント上回った。「話すこと・聞くこと」分野が全国平均を1.1ポイント下回り、「書くこと」分野が全国平均を0.2ポイント下回り、「読むこと」分野が全国平均を2.9ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうか」、「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうか」を問う問題など、全国平均を14問中9問で上回った。その中でも、「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうか」を問う問題については全国平均を6ポイント以上上回った。

＜数学＞
全国と比較して平均正答率は2.3ポイント下回った。学習指導要領の領域別の平均正答率は、「数と式」分野が全国平均を0.6ポイント下回り、「図形」分野が全国平均を2.7ポイント下回り、、「関数」分野が全国平均を3.5ポイント下回り、「データの活用」分野が全国平均を5.5ポイント下回った。全分野で全校平均を下回る結果となったが特に「データの活用」分野の正答率が全国平均を大きく下回っている。設問ごとに比較すると、「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうか」、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうか」などを問う問題など、全国平均を15問中4問で上回った。「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうか」、「相対度数の意味を理解しているかどうか」を問う問題など、4問で全国平均を5ポイント以上下回った。

＜理科＞
全国と比較して、平均IRTスコアが18ポイント下回ったが、大阪市平均とは4ポイント下回り、ほぼ同スコアであった。各設問ごとで比較すると、「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうか」、「【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうか」を問う問題など、22問中5問で全国平均を上回った。